

毎週の小テスト、毎日の学習計画立案で、家での学習を意識化

香川県 多度津町立多度津中学校

多度津町立多度津中学校では、生徒の学習意欲の二極化を課題と捉え、「家庭学習の習慣化」を目標とした改革に取り組む。「自学タイム」「自主学习ノート強調週間」など、家庭学習の効用を感じさせる取り組みにより、あらゆる学力層で自主学習の習慣が定着しつつある。

背景

最大の課題は 学習意欲の二極化

多度津町立多度津中学校は、町唯一の公立中学校だ。同校が2012年度に「家庭学習の習慣化の確立」を目標とした取り組みに着手した背景には、学力の二極化と学習意欲の低さに対する危機感があった。

11年度の県の学習状況調査の結果で、「家で学校の宿題をしていますか」という質問に、「している」と答えた生徒が県平均を上回る一方、「全然していない」と答えた生徒の割

合も県平均より高かった。12年度の文部科学省「全国学力・学習状況調査」では、無解答率が全国平均を上回っていた。

加えて、数年前から生徒指導上の課題が山積していた。新名勝校長は次のように語る。

「基本的な生活習慣が確立していない生徒がおり、授業中に立ち歩くなどの問題行動も見られました。地域や保護者からは必ずしも信頼を得られておらず、校区内の小学校からの入学者が減少するという状況がありました。従来から力を入れてきた生徒指導に加えて、学習指導面からの働き掛けも強めることで、落ち着いた校風に変えていくことが喫緊

School Data

◎1956(昭和31)年、統合多度津中学校発足。「常に純正を愛し仲間とともに自己の最善を尽くす」が校訓。地域・保護者に信頼される学校を目指し、家庭学習の習慣化、清掃活動やあいさつ運動などに力を入れている。



校長◎新名 勝先生

生徒数◎ 539人 学級数◎ 15学級

所在地◎〒764-0014 香川県仲多度郡多度津町本通 2-11-5

TEL◎ 0877-33-2271

URL◎ <http://www.tadotsuchu.tadotsu.jp/>

公開研究会◎ 未定

の課題でした」

取り組みのポイントは、①家庭学習の方法を教える、②家庭学習の必要感・有用感を高める、③家庭学習に取り組む環境をつくる、の3つだ。

「学力の二極化の根本には、学習への意識の二極化があると考えています。最終的には学力の向上が目的ですが、すぐに成果が上がるものではありません。むしろ、家庭学習習慣の定着を切り口として、コツコツと学習に取り組める生徒を育てることこそが重要であり、生徒指導上の課題解決にも結び付くと考えました」(新名校長)

1人で学べる生徒を育てる

●家庭学習習慣の定着の工夫 帰宅後に学習する内容を 学校で考えさせる

学習習慣が身に付いていない生徒にまず必要なのは、家でどのような学習をすればよいのか見通しを持たせることではないか。そう考えた同校は、放課後に10分間の「自学タイム」を設けた。帰宅後に何を学習するのか、学校であらかじめ計画を立てるのだ。

計画では、B5判の用紙に11日分の枠を設けた「今日の学習計画」を使用する(P.16図)。枠を縦2列に分け、右の枠には宿題など「クラス共通の学習」を、左の枠には予習・復習や自主学習ノートなど「自分で内容を決める学習」を書き込む。書いた内容は終わったら線を引き、消していくことで達成感を味わえるようにした。現職教育主任の山田真也先生は次のように説明する。

「PLAN、DO、SEEの流れを、生徒に体感させることで、行き当たりばったりではなく、効果的な学習を自分で行えるようにすることがねらいです。日課に固定させたことで、学校全体で取り組む雰囲気をつくることも出来ました」

計画を立てやすくするため、クラスごとにさまざまな工夫を凝らす。計画を自力では立てられない生徒のために、班ごとに見せ合ったり、計画表の拡大版を教室に貼り、教科係

が宿題を書き込んだり。3学年担任の矢野真衣先生はこう話す。

「宿題を一覧表にすれば、どのような宿題が出たのか忘れがちな生徒はもちろん、担任の私自身も、どの教科で宿題が出ているのがひと目で分かります。帰りの会で『明日は〇〇の提出日だね』と声を掛けたり、取り組んでこなかった生徒に個別に指導したりしています。生徒に『やらなければならない』という意識を持たせる効果があります」

●家庭学習とテストの連動

金曜の小テストの内容を 事前に伝え、家庭学習を促す

こうして取り組んでいる家庭学習の成果を生徒が実感できるように、家庭学習に連動させて小テストを実施している。

小テストは週1回。事前に出题範囲のプリントを配布して自主学習を促し、木曜日に「プレテスト」を行い、翌金曜日に20問中4問だけ変えた「本テスト」を実施する。プレテストを完璧に学習しておけば、合格点の16点が取れるため、家庭学習がテストに役立つという効用感、やれば出来るという達成感を味わうことが出来る。テスト後は満点者、合格率の結果をクラス別に掲示し、学年全体で競い合う雰囲気をつくる。満点の生徒は名前を貼り出すため、それを目標に頑張る生徒も多い。小テストを自主学習ノートと関連付けるこ



多度津町立多度津中学校校長
新名 勝 しんみやう・まさる
「小さなことでもコツコツと取り組める生徒を育てたい」



多度津町立多度津中学校
細川 仁美 ほそかわ・ひとみ
2学年担任。家庭科主任。「生徒と同じ目線に立って、『諦めない指導』を地道に追求していきたい」



多度津町立多度津中学校
山田 真也 やまだ・しんや
現職教育主任。数学科主任。「学習に限らず、生徒一人ひとりを大切にして、日々の学校生活を楽しんでいきたい」



多度津町立多度津中学校
矢野 真衣 やの・まい
3学年担任。保健・体育科担当。「生徒一人ひとりをしっかり把握して、自立した生徒を育てていきたい」



多度津町立多度津中学校
川本 生積 かわもと・いづみ
1学年担任。数学科担当。「当たり前のことを当たり前に出来る生徒を育てたい」

とで、ノートの提出率も上がっている。同校では毎日1ページの自主学習ノートを使った学習を課しているが、学習計画が立てられない生徒には、「計画よりも、簡単なことからでもよいので、ノートに小テスト用の学習をしてきなさい」と言い、自主学習ノートの提出を優先させる。また、小テストの不合格者には放課後に再テストを行うが、受けられな

生徒には、再テスト用紙を渡し、翌日まで
に解き、自主学習ノートに貼って提出するよ
うに指導することもある。さまざまな手段や
方法で、生徒に毎日、家庭学習に取り組みせ
るといふ姿勢を貫いている。

週末課題も平常点に加え 取り組んだ成果を評価に反映

小テストと同じように、定期考査は週末課
題と連動させている。

同校では毎週、5教科全てで週末課題を出
す。普段は、生徒は課題の一覧表を見ながら、
土日に週末課題と自主学習ノートに取り組
み、月曜日の朝に提出。教科担任がチェック
して、その日のうちに生徒に返却する。

この週末課題で、定期考査前にはテストに
直結する対策プリントを課す場合がある。試
験前にどのような勉強をすればよいのか分か
らない生徒は、特に熱心に取り組むという。
「家庭学習の内容をテストに結び付けるこ
とで、自分で学習することの有用感を持たせ
ることがねらいです。課題の量は教師間で調
整して出し、提出されたノートは一つひとつ
必ずチェックし、評価・評定に反映させてい
ます」(山田先生)

担任によっては、生徒の様子を把握するた
めに、担当教科以外の取り組みも確認する。
1学年担任の川本生積先生はこう話す。

「担当教科の数学以外の状況も知っておき

図 「『今日の学習計画』の使い方」の生徒用プリント

(資料1) 「今日の学習計画」の使い方 学習図書委員会

1 「自学タイム」の時間に、今日の家庭学習で何をやるのかを考えて、書き込む。

(例) 今日の自学ノートは、漢字をしよう。英トレノートは、このページの単語がいいな。社会の分析も、自主的に復習しようかな。それから、今出ている宿題は、数演と国語のワーク、それから、学級旗の図案だったぞ。

日付	自学ノート・英トレ・自主学習	宿題・今出ている課題
4月 26日	自ノート 漢字練習 英トレ 教科書8～12ページの単語 (本) 社 分析2～8p見直し	数演6～8ページ 国ワーク 9～11ページ 丸つけも 学級旗図案

2 家に帰ったら、計画したことをどんどんしていく。終わったら、赤ペンで済す。

日付	自学ノート・英トレ・自主学習	宿題・今出ている課題
4月 26日	自ノート 漢字練習 英トレ 教科書8～12ページの単語 (本) 社 分析2～8p見直し	数演6～8ページ 国ワーク 9～11ページ 丸つけも 学級旗図案

3 夜の日の朝、自学ノートにはさんで先生に提出。自学タイムの時間に、ノートと一緒に返して
もらったら、前日できなかった分も含めて、その日の計画をたて、書き込む。

(例) 昨日は、分析と学級旗ができないまま寝ちゃったから、今日は自学ノ
ートで分析の見直しをしよう。英トレは、中英。それから今日、理科で次
の授業までの宿題が出たけど、早めにやっとならうかな。

日付	自学ノート・英トレ・自主学習	宿題・今出ている課題
4月 26日	自ノート 漢字練習 英トレ 教科書8～12ページの単語 (本) 社 分析2～8p見直し	数演6～8ページ 国ワーク 9～11ページ 丸つけも 学級旗図案
4月 27日	自ノート 社 分析2～8p見直し 英トレ 中英 4ページの単語 (金)	学級旗図案 中理 5ページ

※ どんなふうに使ったかわかったでしょうか。毎日の自学タイムで、こんなふうな家庭学習の計画をた
てるようにすれば、行き当たりばったりでない、効果的な家庭学習ができます。学力も伸びていきます。
これから、「自学タイム」と「今日の学習計画」をしっかりと活用して、家庭学習を充実させましょう。

たいので、月曜の朝に週末課題が提出された
ら、全てのノートを点検し、きちんと丸付け
をしているか、間違ったところをやり直して
いるかをチェックしています。提出しなかつ
た生徒には、出来るだけ早く提出するように
声を掛け、やり遂げさせるようにしています」

●家庭学習を行う雰囲気づくり 「自主学習ノート強調週間」で クラスで家庭学習に向かう

学校全体で、家庭学習に向かうような雰囲
気づくりも行う。その1つは、「自主学習ノー
ト強調週間」だ。年5回、定期考査の1週間

前に、クラス間で自主学習ノートに取り組
んだページ数を競い合う。学習内容がある程度
明確になる定期考査前に、学校全体で家庭学
習に向かう雰囲気を盛り上げることで、普段
は学習に取り組みない生徒でも学習に向かう
きっかけにするのがねらいだ。

普段は1日最低1ページ取り組むことに
なっているが、強調週間ではクラスメート全
員の取り組んだページ数を合計して、最優秀
クラスを表彰する。また、13年度からはクラ
スごとの提出率も集計し、100%だったクラ
スは昼休みの給食の時間に校内放送で発表
している。

「今日の学習計画」の立て方を、生徒が考えやすいようにプリントで説明する。
2013年度からは、「わたしの生活」という冊子の「学習計画欄」を使って、今
日の学習計画を記入させている

* 同校の資料をそのまま掲載

1人で学べる生徒を育てる

表彰されようと、工夫を凝らすクラスもある。矢野先生のクラスでは、6つある班それぞれに、1日20ページを1週間続けるという目標を割り当て、目標達成のために、一人ひとりの割り当てのページ数を相談する。

「回数を重ねる」ことに、『今日は用事があるから誰かお願い』『昨日は少なかったから、今日は僕が頑張るよ』というように、話し合いの中で交渉する術を学んだり、団結心を高めたりする様子が見られるようになりました。今は目標のページ数を示すと、生徒同士がすぐに話し合って、分担を決めています」(矢野先生)

班で決めた約束なので守らざるを得ず、結果的に目標のページ数の家庭学習を確実にこなす動機付けにもなるという。本来、個人的な取り組みである家庭学習をグループ活動に利用することで、生徒同士の団結や信頼関係、高め合う意識を巧みに引き出している。

●成果と課題 成績上位層にも家庭学習に向かわせる工夫を

今後の課題は学習計画に対する意識の改善だ。「自学タイム」を始めて1年半が経過したが、依然として2・3年生の中にも学習計画を立てられない生徒が一定数おり、多いクラスでは10人以上に上るといふ。2学年担任の細川仁美先生は、次のように語る。

「成績中位層以下の生徒の中には、教師が具体的に方法を教えても、学習計画を立てられない生徒がいます。ただし、それは学力や能力の問題ではなく、やる気のなさが根本的な原因だと思われまます。学習計画の必要性を意識させて、自分からやろうと思う気持ちを育てる工夫が必要です」

成績上位層への意識の持たせ方も課題だ。自主学習ノートで伸びるのは、力があるけれど伸び悩んでいる成績中位層の生徒に多い。逆に、成績上位層の生徒が必ずしも質の高い自主学習ノートを仕上げてくるとは限らない。塾の課題があるためか、学校の課題がそろそそかになる生徒もいるという。

「班で自主学習ノートのページ数を分担する際も、『塾があるから』という理由で、協力しようとしないう生徒もいます。そういう生徒は周囲の信頼を得られず、班の団結力も弱まります。同じ班の生徒がそうした生徒に『一緒に頑張ろう』と声を掛けたり、教師が自主学習ノートの大切さを伝えたりしています。が、上位層をどのように学校の取り組みに乗せていくのかは今後の課題です」(矢野先生)

コツコツ取り組む姿勢が 徐々に身に付いていると実感

このような課題はあるものの、家庭学習に前向きに取り組む生徒は確実に増えている。12年度、生徒に行ったアンケートによると、

「自主学習ノートは自分の学習に役立っていると感じるか」という質問に対して、80%の生徒が肯定的な回答をした。特に、12年度1年生(現2年生)は87%という高い数字だった。また、「中学生に家庭学習は必要か」という質問に「全然(必要ない)」と回答した生徒は、6月時点の4%から11月には2%に減少した一方、「はい」と答えた生徒は50%から52%に増え、最も課題だった学習意欲がわずかながら向上している様子が見えがえた。

家庭学習が習慣化しつつあることは教師も肌で感じている。「自主学習ノートや週末課題を、ほとんどの生徒が提出できるようになったのは大きな成果です。コツコツと取り組む姿勢が身に付きつつあるのを感じます」と山田先生は語る。学習面の変化に伴い、生徒の問題行動も激減し、特に3年生は1年生の頃に比べて授業中の雰囲気が見違えるように落ち着いてきたという。

そして、何よりの大きな成果は教師の意識改革であると、新名校長は語る。

「本校は学校経営の重点目標に同僚性・協働性を掲げています。先生方に真摯に改革に取り組んでいただき、教師集団の団結が強くなったことが最大の成果です。この団結を土台として、今後は家庭学習と授業をつなぐ工夫も含めた授業改善にも力を入れていきたいと考えています」